

令和4年度第2回 静岡市みどり審議会会議録

- 1 日 時 令和4年11月22日(火) 14時～16時
- 2 場 所 静岡市役所 4階 災害対策室
- 3 出席者 (委員)五十嵐会長、青木委員、伊東委員、大石委員、川口委員、杉本委員、竹内委員、三津山委員、守屋委員
(事務局)鈴木緑化政策担当部長、桑原緑地政策課長、吉川係長、大滝副主幹、池谷主査
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題 (1) みどりの基本計画改定の内容について
1) 前回の振り返り(第1章～第3章)
2) 第4章 将来像を実現するための施策・事業
3) 第6章 6-1 将来像の実現に向けた評価指標

6 会議録

- 1) 前回の振り返り(第1章～第3章)について

伊東委員 トレンドの中にまちなかウォークブルを追加しているが、P1、P5にも記載が必要ではないか。

七夕豪雨についても記載があっても良いのではないか。

五十嵐会長 ウォークブルについて解説を入れた方が良い。

- 2) 第4章 将来像を実現するための施策・事業について

竹内委員 P14の浴道が誤りである。

市の花のハナミズキについて記載がない。

有効数字について統一した方が良い。

P99の外来種への対応として「防除」は植物が対象だが、「駆除」という表現もある。

「子ども園・幼稚園」…は「」の方が正しい日本語である。

五十嵐会長 緑視率について、指標にするようなら、それに対応する取組が必要である。P21からの記載について、「静岡市立地適正化計画」より地点を選んでいるというが、なぜその区域が基準となっているのかを明確にした方が良い。緑視率を高める手法について記載が必要では

ないか。緑化重点地区についてなくすという話だが、例えば緑化重点地区を縮小化するなどして緑視率に関する取組をしていった方が良いのではないか。緑視率は公的な緑化だけでは無理であり、民間による協力が必要である。

竹内委員 市民がみどりを学ぶ場が重点地区としてあったが、重点地区がなくなった分、ソフトの面からも誘導していくことが必要である。

大石委員 「身近な地域にみどりが多いまちだと思う市民の割合」について、平成25年と今年では調査方法が異なるのではないか。P100のIGTについて、オープンガーデンの取組が記載されているが、ウォークブルという言葉の中にこういったものも含めて、歴史、話題性が豊富だとかそういうところの巡回コースがあるが、そういったものをこの中に入れておいて、より一層とすれば先ほどの意識という面で上がっていくのではないか。

事務局 オープンガーデンとウォークブルを組み合わせるとネットワークにしていくイメージか。

大石委員 オープンガーデンは個人宅なので、公的な神社などの空間も含めてネットワークしていくと厚みが出るのではないか。

五十嵐会長 静岡市はオープンガーデンが盛んなのか。

大石委員 浜松の方がフラワーパークがあることもあって盛んである。余談であるが、家康くんも浜松にとられてしまっている。

五十嵐会長 アピールして皆に知ってもらうのも大切ではないか。IGTについてもウォークブル等と組み合わせるとしても良いのではないか。

オープンガーデンもこれからやっていくのであれば、もっと記載すれば良い。外国に行くとガイドブックがあり、入りやすい環境がそろっている。

青木委員 静岡市は花を楽しめる場所がない。この場所に行けばという重点地域を作ってほしい。花プラスみどりとして力を入れていくと良い。

事務局 各公園でジャカランダ等の花が見ごろの時期はSNSを活用した情報発信をしている。

青木委員 やはり高齢者にとっては、新聞等の方が効果が高いと感じる。

五十嵐会長 静岡のナンジャモンジャは東京の新聞に取り上げられていた。緑視率について、みどりを増やすベースとなる計画を作るのは誰なのか。

事務局 今は事務局がやっている。

五十嵐会長 民地もあるので計画を作成していく必要がある。

青木委員 駿府城公園のサクラはいまいちである。

五十嵐会長 つつじはどうなったのか。

青木委員 適期でない剪定によりうまく咲かなくなってしまった。

杉本委員 駿府城公園の沈床園花壇の手入れが行き届いていない。

- 五十嵐会長
杉本委員
事務局
管理の管轄に溝がある。
一つの課で管理した方が良いのではないか。
駿府城公園の植栽についてお話があったが、お堀の周りのつつじについては、観光地として見せるためにどうしたら良いのか計画づくりをしている。駿府城公園に限らず、観光や市民の憩いの場につながる取組についてもこの計画に入れている。また、官民連携についても記載している。
- 五十嵐会長
事務局
五十嵐会長
竹内委員
新しくつつじが出てきた話などもある。
どのように記載していくべきか、内部で相談させていただく。
歴史的な背景等も含めてベースをしっかりとった方が良い。
流域治水というと水田が多い地域のイメージがある。また、計画の中でみどりを増やしていこうという話の中で、植物の根茎に水を吸収させていくというスキームが見えない。
静岡の代表的な景観というものの中では、わさび田があるが、計画の中には記載されていない。台風 15 号では農地の 4 分の 1 が被害を受けたことがあり、みどりの外郭的な部分についても記載した方が良い。もちろん林業特産物なので計画にそぐわないかもしれないが入れられると良い。
安倍川の上流はどこで区切られるのか。
- 五十嵐会長
竹内委員
川口委員
都市計画区域ではないか。
わさび田についても入ると良い。
地域制緑地の現況で言及しておき、具体的なところで何か記載できると良い。
- 五十嵐会長
川口委員
竹内委員はメッセージとおっしゃっている。計画の中心にはならないが入れられると良い。
緑視率について、立地適正化で機能を誘導するエリアを拾っているが、その中における優先順位があった方が良いのではないか。
P80 の都市拠点のみどりの拡充について、緑視率に関連して展開できるところの結び付けが弱い。例えば、市街地再開発事業との連携により等のところ緑視率の言及があると良いのではないか。具体的な取組や優先順位のつけ方で見えてくるところがあるのではないか。
- 五十嵐会長
川口委員
みどりの基本計画として、どこの緑視率が特に大事なのかという重みづけが必要ではないか。
P100 の ICT について、「検討します。」等の記載について表現を気を付けた方が良い。また、検討しなくてもどんどん色々なものできてきているので、新たに作成するのではなく、プラットフォームのように安心していける最新の情報が掲載されているという仕組みがあると良い。自分たちでアプリやサイトを作成するのではなく、あるものを活用し、自分たちでみどりに関連する情報をさっと出せ

る仕組みを作る方が良い。ICTについては行政では難しいスピード感で取組が進んでいるので行政ができることという視点で考えた方が良い。

五十嵐会長

大石委員の指標に関する指摘と一緒に考えた方が良い。

大事なことを言いたいが、取組が全て単発になっている。P66の図面についてももう少し固めた方が良いのではないか。4つの系統が抜けてしまっているのので、各取組のつながりが見えない。また、エリアについては都市計画区域を基本として、その周辺を取組についても検討すると良い。ベースになるのは持続性のあるみどりを保全して、4つの系統を整理するのが緑の基本計画のベースであり、前計画はそのような構成になっているので参考にした方が良い。また、区ごとの整理はしなくて良いのか。

青木委員

P3とP57の分野の並びを整合をとった方が良い。

伊東委員

海岸浸食について、国土保全につながる場合は、「海岸侵食」が正しい。

大石委員

景観アドバイザーがあるなら、みどりのアドバイザーがあっても良いのではないか。

事務局

みどりに特化したアドバイザーということか。

大石委員

例えば駿府城公園のサクラなどのことがある。

事務局

みどりの相談所については、園芸市で実施しているが、分からないことをすぐに聞けることが作れるかどうかについては社会実験等を通して実施していきたいと考えている。

三津山委員

みどりの保全・維持をどのようにしていくのかがとても重要である。農地は耕作放棄地が増え危機的な状況になっている。農業従事者は半数程度になるという予測もしており、3年前に対策の計画を作成したが絵にかいた餅になってしまう。生産緑地についても高齢化で減ってしまう。みどりを増やすのは良いが、これからどうやって維持していくのかという部分が非常に重要になっていく。

五十嵐会長

都市エリアで大規模なみどりとは何かと言うと、山や農地であるが、みどり側から手を出せるのは生産緑地等くらいになってしまう。後は、農業サイドと連携して取り組んでいくことが重要である。

守屋委員

静岡市では小規模で農地を持っている人が多い。実は若い人は農地を探しているが、買うことができないので、借地でやっていくしかなく、それでは本腰を入れて取り組むことができない。菊川市や掛川市なら売ってくれるので若い人が頑張っている。行政が農地の売買を支援する等の取組を動かす必要がある。

五十嵐会長

農業サイドでどうするのかということをよく考えていくことが必要である。

「世界に輝く静岡の実現」というのが総合計画にあるが、みどりの基本計画ではどこが打ち出せるポイントなのかを審議会の皆さん

に提示していただきたい。
他に何かあるか。それでは時間になりましたので、その時までに皆さんにも考えをまとめていただきたい。

以上